



Sr.池崎の

ブラジルから

Boa tarde!

(ボア タールジ! : こんにちは!)

最終回!

第19回目 11月20日(土)~11月27日(土)までのレポート

11月20日(土) ビラ・ベéria州立公園

今日は、クリチバから80kmほど離れたところにあるビラ・ベéria州立公園へ車で連れて行ってもらいました。クリチバとその近郊の見所についてはほとんど回った私でしたが、ここはまだ行っておらず、ぜひ行きたいと思っていました。



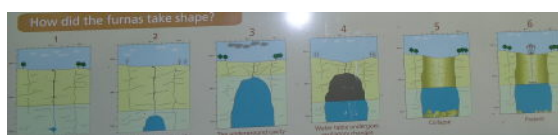
ここは、長い年月の間に風雨によって浸食された砂岩が、奇岩群となって野外美術館の彫刻のように立ち並んでいます。左上写真は、岩自体がカップ型をしています。このように、岩の形から「長靴」「猫」などのように名前が付けられたものや、左下写真のように、岩肌がボトルをくりぬいた状態になっているところなど、岩肌の状態にもいろいろな形がありました。岩肌が赤く見えますが、これは、砂岩の中にある鉄分が酸化して赤くなっているそうです。昔「ライオン」と名付けられていた岩が、人的な影響でその形が分からなくなってしまったものもあり、保存の大切さ

を感じました。右写真が全景を表しますが、約1.3kmにわたりこのような奇岩群が続いている壮大なものでした。そのスケールの大きさに驚き、岩の形や岩肌の模様に神秘を感じました。



さらに、この奇岩群の近くに、

「地獄の大釜」と名付けられる巨大な大地の割れ目もありました。これは、左写真の説明で分かるように、雨水などが地下に溜まり（説明図1～3）、地殻の動きで水位が下がり



上部が空洞となり（説明図4）上層部が下に落下（説明図5）し、大釜となった（説明図6）そうです。右写真がそれです。直径が約

80m、水面までが60m、水深が80mあるそうです。水は、青々とし、上から見ていると吸い込まれそうでした。ここにはこのような大釜が複数あるそうです（直径150mのものも見に行きましたが、綺麗な円形になっているという点では、この写真のものの方が綺麗でした）。



さらに、バスで3kmほど離れたところに、「黄金の湖」と呼ばれる湖

がありました（左写真）。湖底に雲母が層をなして輝いているためだそうです。確かに水は透き通り綺麗な湖でしたが、さすがに黄金には見えませんでした。夕暮れ時が見所みたいです。

これがクリチバ最後の観光になると思いますが、壮大で神秘的な観光をさせてもらいました。これで、心残りが無くなりました。



11月21日(日) 黄色いバスと NIKKEI CURITIBA 運動会

今日は、クリチバにある日系会館で、運動会がありました。タクシーで行けば簡単ですが、あえて市内バスを使い冒険しました。今回使用しなくてはならないバスは、左上写真の黄色いバスです。このバスは、赤色の基幹バスに比べ、市内各方面を網羅的に走っています。バスは、1両編成で普通のバスです。ただし、中央出入口（ここは本来出口専用）には、車いすの人が利用できるように昇降機がついています。バス内には、車掌さんがいて（左下写真）、この人に料金を支払い中に入れてもらいます。いわば料金前払いです。料金は先日紹介したバスと同料金で、日曜日以外は2.2リアル、日曜日は1リアルです。今日は日曜日なので1リアル（なんと約50円）です。この低料金なので、バスに挑戦しようと思ったわけです。もし、バスに乗って行き先不明になり単純に引き返してきても2リアルの損失、たいしたことはないと思ったからです。

案の上、迷子になりました。この辺だと見当を付けバスを降りたところには、日系会館らしい建物はありません。しばらく、歩くとバスが止まっていた（バスの終点）ので、運転手に道を尋ねましたが、何を言っているかさっぱり分かりません。ただ、目的地の日系会館はかなり遠いということだけは想像できました。その後、会話から何とか想像を働かせ、このバスに乗れば近くで降ろしてくれそうな雰囲気だったので、それを信じて、再度バスに乗りました。勘は的中し、見事に日系会館近くでバスを降ろしてくれ、目的地に到着することができました。優しい運転手さんと車掌さんのお陰で何とかできました。

日系会館での運動会は、昔の、しかも田舎の「村の運動会」という雰囲気を漂わせていました。好天に恵まれたこともあり、大きなテントが張られ、そこでほとんどの人が観覧し自分の知り合いが参加している時に応援しています。また、運動場中心には、ポールを立てられ、そこから、万国旗、そして中心には鯉のぼり、ほのぼのとした日本の風景を感じることができました。

競技は、年配の方の競技（豆をさらにつまみ運ぶ競争）、2人3脚、子ども達のパン食い競争（実際は、パンではなくクッキーでした）など、各年齢に合わせた種目が用意されていました。綱引きなどは、男女各2チームずつが参加し、大盛り上がりでした。ただ、年配の参加者の方が、かなり多く、若い世代になればなるほど参加者は、少なくなっていました。誰かが、「年々寂しくなる」と言っていました。日系社会はどうなっていくのでしょうか。



11月22日(月) クリチバ日本語学校訪問 日本からの帰国者



今日は、クリチバの文化援護協会が母体になっている日本語教室へ行ってきました。入り口には、習字が掲示してあり、日本を感じさせてくれました（左写真）。

今日の訪問は、ここでお世話になっている生徒が、日本からブラジルに転居後、かなり困っているということで、その子や親御さんの話を聞くためでした。

子どもは、16歳と8歳の姉妹（埼玉県）で、二人とも日本で生まれました。両親ともブラジルの方で、20年ぐらい前にそれぞれが日本に出稼ぎに行き、日本で知り合い結婚。出産したそうです。今回のブラジル帰国は、母親の健康問題で帰国せざるを得なかったようです。父親はまだ日本に残りしばらくしてから日本に帰国する予定とのことです。ロンドリーナ（北パラナ）には自分の家もあるそうですが、母親の入院手術の関係で、実家の祖母をたより、クリチバに一時生活しているそうです。

子ども達はもちろん、日本語はぺらぺら、しかも、ご両親の教育方針もあり、ポルトガル語についても、会話には不自由しない程度に話せます。しかし、書くことや難しい言葉になると分からないそうです（右写真奥から2人がその生徒、その手前が母親）。



さて、この親子の困っていることですが、クリチバには3月末に来たのですが、学校に編入できていないということです。もちろん、クリチバの学校に編入学の申し込みには行ったそうです。しかし、現在、固定した住所がない（実家の祖母の住所ではダメ）ということ、ポルトガル語が十分に分からない・ポルトガル語の分からない子を編入させた前例がないなどの理由で、合計10校ほどの学校を回ったそうですが、州立・市立・私立とも受け入れてくれなかったそうです。また、もしも、編入するなら、小学校1年生に入学するなら良いと言われた学校もあるとのこと。そのために、仕方なく、自分の家のあるロンドリーナに転居し、そこで学校へ編入することにしたそうです（今週の木曜日に転居するそうです）。

私が、州の教育局や事務所を訪問し編入について話を聞いた時には、日本からの書類を基にどの学年に入るか決定するが、書類がない場合は、無条件で年齢相応の学年に編入させるということでした。しかし、今回の処置を聞いていると、実際の学校の対応が異なっていました。こちら辺が、ブラジルらしいところです。おそらく、州や市としては、学校や保護者から事務所に相談があれば、編入手続きを行っていくと思われそうですが、今回のケースはおそらく学校が独自の判断のもと、編入を断ったのだと思います。教育事務所の方針が各学校に徹底されていないのだと思われそうです。すでに、ロンドリーナへの転居を決めているので、もし、編入のことで困ることがあれば、教育事務所へ行くように母親には話をしました。教育委員会・事務所・学校が同一歩調でないところにブラジルの難しさがあると感じました。子ども達には、頑張ってもらいたいです。

11月23日(火) クリチバ市立学校教員との懇談と4年算教授業参観



今日の午前中は、クリチバ市立学校の教員と座談会を行いました。市の教育局の方が2名、学校の教員が4名です。一日制、二部制など、様々なタイプの学校から選ばれていました。

話の内容としては、ブラジルの一日制について、教師に対する保護者や子どもの見方の変化、態度

の悪い子への対応の仕方、食事の取り方と食費などについては、日本とブラジル教育の違いが鮮明に出たところもありました。しかし、教育というのは毎日毎日の指導の継続や、小さい指導の積み重ねが大切であると再認識し、教育の根本では同じように感じた部分も多くありました。

午後からは、市立学校3年生（日本の2年生年齢）の算数の授業参観でした。先日は州立学校でしたが、今日は市立学校です。本日の授業は重さの単位の計算（kgとgの単位をそろえ、計算できるようにする授業）です。

この先生の授業のすばらしさは、一人一人を大切にしている場面が随所に見られたことです。

一つは、机間指導を大変丁寧に行い（右写真）、一人一人のノートチェックを確実に行っていました。また、子どもを前に出させ、問題を解かせたり、発表させたりという時間を確保して、子どもの活躍の場（左上写真）を多くとっていました。さらに、最後



には、問題づくり（左下写真）を子ども

にさせ、子どもが考えた問題を他の子に解かせるように、授業が構成されていました。

次に、本時の授業のために、子どもたちに重さの表示してある箱や袋などを多数もってこさせ、それを基に授業を構成しているところです。子ども達は、小麦粉の袋に書いてある1kg、チョコレートの包みに書いてある160g、ビスケットの入れ物400gなどを足し算したり引き算したりするために活用していきます。まさしく、身近にある

ものを活用し生活場面を算数の世界に導入していました。そのため、子ども達は、授業中も大変意欲的に取り組み、黒板で計算している子の考えに対して、指名を待たずに席を立ち意見を言ったりするほど（右写真）の活発な授業でした。



さらに、子どもが黒板に間違っただけの考えを書いた時には、それを上手く活用し、全体の子の考えの定着に利用した場面などは、なかなか感心させられました。

授業後に素晴らしかった点について話をしたところ、これは、市教育局での研修で学んだことや、指導に従っているだけと言っていました。この言葉を信じるなら、多くの先生がこのような授業に取り組んでいることになり、とてもうれしい気分になりました。

11月25日(木) 私立ポジティブ校訪問と連邦大学モニカ先生との面談

今日は、私立ポジティブ校訪問と連邦大学のモニカ先生との面談です。

まず、私立ポジティブ校訪問です。ここもさすが私立学校でした。ここは、学校だけでなくPC会社、教材会社、大学、出版社を運営しています。教材会社では教科書も作成し、ポジティブ校で作成した教科書は全世界 2500 校で使用されています。本校の特色の一つに授業時間数の多さがあります。他校では4～5時間授業ですが、本校は6時間授業です。時間数の多い理由は、基礎科目（ポルトガル語と数学）の授業時間数を多くしたい、小さい頃から哲学を指導したい、高校生には社会学を学ばせたいためだそうです。おそらく、受験対策なのだろうと思います。進学率、月謝とも、他の私立学校とほぼ同様でした。



校内案内では、素晴らしい施設設備が数多くありました。左写真は、低学年の教室です。これまでに見た教室の中で一番夢のある作りで、素敵な掲示箇所も用意されていました。また、英語を勉強する部屋は、あたかもイギリスにいるような雰囲気を醸し出す壁の絵が全面に描かれていました。これまでの公立学校の殺風景な教室とは真反対の、

明るくて楽しい教室でした。右写真はプールです。このプールは温水プールで、しかも、屋根が開閉式になっているので、天気のよい日には屋根が解放される仕組みになっています。体育館は、ブラジルでは初めて板張りでした。さらに、体育施設の近くに保健室もありました。これもブラジルで初めてです。さらにそこには看護師と医師が常駐しているとのことでした。



左上写真は、幼稚部の教室の天井です。よく見ると、白い点が見えます。実は、これはプラネタリウムの光です。明るい状態なのではつきり分かりませんが、暗幕を締めて暗くすると、星や星座の状況を映し出すことができます。すべての幼稚部の教室天井がこのようになっています。また、敷地内には菜園や遊具もありました。特に目を引いたのは、右下写真の滑り台と青い砂です。滑り台はもちろん木製。そして、青い砂に滑り落ちていく気分はとても気持ちいいだろうと、大人ながらに思いました。外には、「空の下の学習スペース」という

広場もありました。ここには、世界地図、物理的な実験ができる設備、自然植物など、屋外科学館と呼んでもよいような、かなりお金をかけた施設でした。全体的に、他の私学2校とは異なった素晴らしい環境に圧倒されました。



ポジティブ校訪問後、連邦大学のモニカ先生と面談しました。

様々な話の中で、一番興味深かったのは、モニカ先生の私立学校批判でした。ちょっと訪問しただけの来訪者には分からない私立学校に対する別の見方を聞かせて頂いたように思います。

11月26日(金) 次期教育局長(兼副知事)との懇談、州教育局最後のあいさつ



今日は、急きょ、次期教育局局長（兼副知事）のフラビオ氏（左写真一番左）に会うことになりました。今回の渡伯に際しても間に立って頂いた西森州議員の計らいで、このような場を設定して頂きました。この報告書でも、何度か書きましたが、来年（1月）からの政権交代に伴い、教育局内の主だったポストの担当者がすべて交代します。局長を筆頭に、部長クラスや秘書クラスまで

です。さらに、本年度の局長はすでに、退職。局長秘書のシンチアさんは長期休業。私の担当部長のファチマさんは、局長代理としてブラジルへ出張。このような状態なので、来年度のこの事業については、誰とも話すことができない状態でした。

そんな状態での今日の懇談だったので、私としては大変うれしかったです。本来であれば彼は大変忙しく、会う時間を作ることができなかったのですが、私がブラジルで書いた報告書に目を通してくださり、興味を持ったので、昼食を共にしながら話をしましょうということになりました（昼食時間ぐらいしか時間がとれないということです）。

懇談内では、ブラジルの教育をたくさん勉強させてもらった中での私の感想を述べさせて頂きました（ブラジルの教育にはブラジルの文化や多様性を生かした取り組みが多く行われている。素晴らしいこともたくさんある。今のブラジルの教育を改革して変えようとするのではなく、今あるブラジルの教育の良さをさらに伸ばしていけばよいと思う。システムの変更よりも、現システム内の充実が大切だと思う）。フラビオ氏からは、今後も豊橋との交流を継続したい、将来的には連邦から経費を出してもらい言葉の壁を少しでも解消できるようなプロジェクトを考えたい、是非日本にも訪問したいなどの話をしてくださりました。昼食を共にしながらでしたが、有意義な話し合いができました。

フラビオ氏との面談の後、州教育局に最後のあいさつに行きました。前述のように、主だった人は不在の状態でしたので、私の業務に関する細かい業務（州内の遠方の事務所や市の教育局との連絡調整、車の手配、計画づくりや私の要望に基づく調整）をして下さっていた方々（右写真）と懇談しました。

懇談の一部を紹介します。今年度は初年度ということもあり、ほとんどの部署を回り情報交換を行いました。その結果よい情報交換ができ、州側でも自分たちの業務の再認識ができたし、日本の教育の良さも知ることができ有効でした。しかし、来年もこの事業を継続するのであれば、さらにステップアップするために、異なった取り組み方を考え、より実のある事業にしていくようにしなければならないと考えます。例えば、グループで討論するとか仕事を共に行うとか、目的意識のある学校への指導を行うとか、さらに多様なことを考える必要があると思うという意見が出ました。私もその通りだと思います。ここでも、来年度に向けて建設的な意見を頂くことができました。6ヶ月間、本当にありがとうございました。



11月27日(土) クリチバーネとの再会、精進料理研究会、送別会



なんと、今日は、昨年度日本で研修を受けていたクリチバーネと再会することができました。これまで、何度か連絡をとっていたのですが、お互いの都合が合いませんでした。クリチバーネが住んでいるサンパウロ州のオスヴァルドクルス市は、クリチバから 500km くらい離れたところにあり、今日は、夜行バスに乗って駆けつけてくれました。彼女の片言の日本語と、私の片言の英語を交え、何とか会話をしました。クリスの近況は、彼女から以前もらったメールから良く分かるので、それを紹介します。「私は元気にオスヴァルドクルスの市立学校に勤めています。

ここには日本からの生徒も結構来ます。今週私のクラスにポルトガル語が解らない生徒が入ってきました。日本の研修で学んだおかげでその子と会話をすること他の子とも仲良くさせる事が出来ています。彼の両親は三月に帰ってきていましたが、学校へ行かせるのが怖くて今まで家に置いていたそうです。母親がフィリピン人で父親が日本にもう 20 年住んでいたそうです。その両親ですらあまり日本語が話せないそうです。その子は結構学校が気に入ってくれているみたいです。楽しいと言ってくれています。彼は他の生徒に日本語を教えたりしています。私も以前そうしていたので、クラスの生徒達はその日系の子をよく受け入れてくれました。帰ってきてから日本で習った事を色々と学校に取り入れようとしたことがごとく止められました。色々と反対をされましたがちょっとずつ覚えた事を自分の日常で何とかやっています。最初から難しいと思っていましたが想像以上でした。けれどもブラジルの学校の教育の質を高める夢はまだあります…」



午後から、精進料理研究会と私の送別会に行きました。

精進料理研究会というのは、クリチバでいつも遊んでもらっているお寺の大江田さん（左写真左上）という方が中心になり、いろいろな精進料理を作り、精進料理を研究しようという会です。将来的には、ブラジル風精進料理を作りたいそうです。今日の料理は、イタリアン精進料理で「夏野菜たっぷりあっさりそうめん（左写真右上）」「菜の花と梅干しのスパゲッティ（左写真左下）」「冷やしトマトコロシのスープ（左写真右下）」でした。もちろん私も手伝いました。最初は 8 人のメンバーでしたが、最後には子どもも入れ 17 人になりました。みんなでわいわいがやがや言いながら作り、その後会食もしました。メニューの内容は、日本の精進料理のイメージからは外れていますが、それでも、肉や魚などはいっさい使っていません。私も、日頃は、台所仕事などし

ないですが、とても、楽しい一時を過ごすことができました。

精進料理研究会の後メンバーも入れ替わり、今度は私の送別会をして頂きました。クリチバで楽しく過ごさせて頂いた日系の人や、日本から移住してきた人たちと最後のお別れをしました。クリチバの方々、ありがとうございました。

